

中央線が好きだ。

magazine

vol.2 2015

青女歩の達人



高尾

風と緑の匂いが心地いい。



元オリンピック競技場の公園

昭和39年に開催された東京オリンピックの自転車競技場の跡地が生まれ変わった公園。南浅川に面し、自然のままの川と整備された公園がともに市民の憩いの場所になっている。公園は野球場と広場、じゃぶじゃぶ池のあるエリアと、遊具広場などがあるエリアに道を隔てて分かれている。

DATA JR中央線高尾駅北口から徒歩約20分、または南口からバス約4分の「御陵前」下車徒歩約5分。☎042-661-0042

陵南公園 南浅川

1. 春には桜のアーチができる。2. 陵南公園の脇を流れる南浅川。3. 公園内の木々の緑も気持ちいい。4. 南浅川に架かる武蔵陵墓地への参道にある南浅川橋。

夕やふれあいの里



こんなところに住んでみたい。この街、居心地・住み心地。東京随一の景勝地、高尾山。その玄関口の高尾駅は新宿から電車で1時間ほど。駅周辺も豊かな自然に恵まれている。存分に自然に親しみ、思うままに自然と遊ぶ、それがこの地の正しい過ごし方だ。



自然と動物にふれあえる

童謡「夕焼小焼」を作詞した地元出身の中村雨紅にちなんだ自然体験施設。ポニーの乗馬、ウサギやモルモットとのふれあい、川遊びや釣り、キャンプ、バーベキューなどの施設があり家族そろって楽しめる。8haの敷地には、じゃぶじゃぶ池、芝生広場のほか、早春から初冬まで花を楽しむ花壇や大浴場を備えた宿泊施設もある。年間通じて行われるイベントも人気。

DATA JR中央線高尾駅北口からバス約30分の「夕焼小焼」下車徒歩約2分。9時～16時30分(4～10月)・9時～16時(11～3月)(イベント開催時には変更あり)、無休。大人200円ほか。八王子市上恩方町2030。☎042-652-3072



ポニーの体験乗馬ができるふれあい牧場。1. 入り口の売店では八王子で採れた農産物の直売もしている。2. 8年前まで走っていたボンネットバス。3. 園内を流れる北浅川では水遊びも。4. 親子でバーベキュー。5. 水深の浅いじゃぶじゃぶ池と、その奥に広がる芝生広場。

高尾は、高尾山の麓に広がる便利な街の機能と、本物の自然が共存する心地いい場所。あちらこちらに自然とふれあえるスポットがあり、緑の中を吹き抜ける風が街のままでそのまま入ってくる。そんな豊富な自然にふれようと多くの人が高尾を訪れる。親子連れにとつてうれしいのは、子どもも大人も楽しめる自然を生かした施設がいくつもあることだ。たとえば夕やけ小やけふれあいの里。広々とした芝生で、親子でボール遊びに興じた後は、大浴場でさっぱり汗を流せる。ゆっくり過ごすなら宿泊も可能だ。

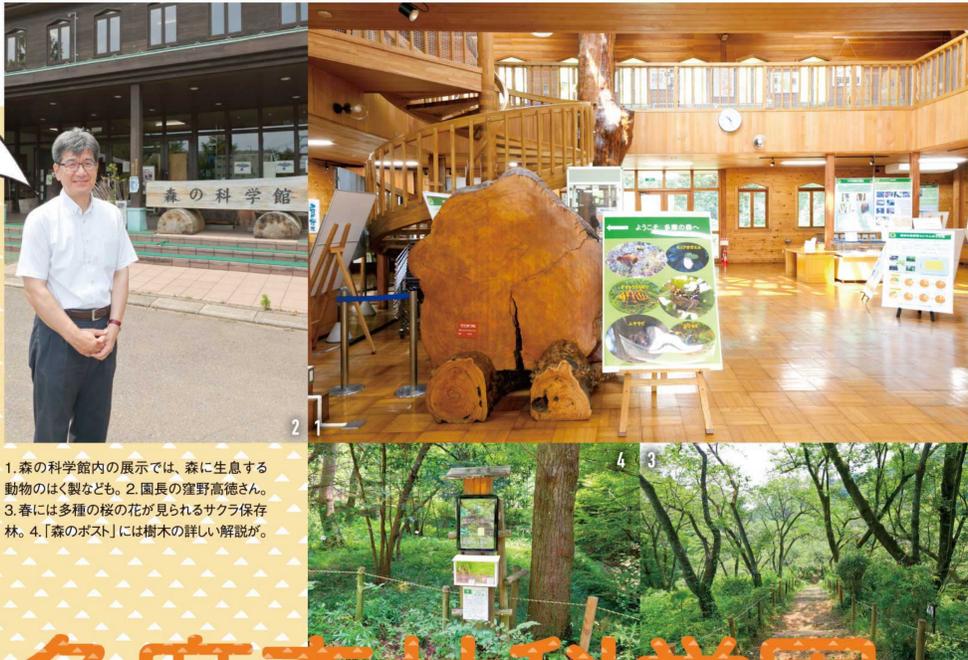
また、高尾駅のすぐ北を流れる南浅川に沿って10分ちよつと下流に歩けば、市民の憩いの場、陵南公園が見えてくる。きれいに刈られた芝生にピクニックマットを敷いて持参のお弁当を広げるお母さんと女の子や、自転車で園内を走るお父さんと男の子など、のんびり休日を楽しんでいる。夏になれば公園脇の南浅川の澄んだ流れに足を浸している家族連れも多い。多摩森林科学園では子どもたちが樹木を見上げたり、草むらの中で虫探しに興じる姿を見かけた。いつの時代も自然は子どもたちを魅了してやまないようだ。春には園内が花見の客でぎやかになり、子どもたちの歓声が聞こえてくる。都心で暮らす親にとつて豊かな自然とのふれあいは子どもの健やかな情操を育む大切な機会。高尾はわざわざ訪れたくなるほど、自然の魅力に富んでいる。子どもたちの笑顔が何よりもその証だ。もちろん大人だって心身ともに癒されること間違いなしだ。

ムササビをはじめ、動物の気配を感じられる場所です。

多様な樹木と生物観察の穴場

動植物の生態を研究する機関で、樹木園と研究成果を展示している森の科学館が一般公開されている。多種多様な桜が咲き競う春が人気だが、約500種6000本の樹木が植えられた園内はムササビをはじめとした動物や昆虫が生息。いつ訪れても自然の息吹が感じられる。平日には毎日10時からガイドツアーが行われている。

DATA JR中央線高尾駅北口から徒歩約8分。9時30分～16時(4月は9時～)。入園は開園30分前まで。5～2月の月曜(祝日の場合は翌日)・年末年始休。大人300円(4月は400円)ほか。八王子市甘里町1833-81。☎042-661-0200



1. 森の科学館内の展示では、森に生息する動物のはく製なども。2. 園長の窪野高徳さん。3. 春には多種の桜の花が見られるサクラ保存林。4. 「森のポスト」には樹木の詳しい解説が。

多摩森林科学園



自然と調和した4つの御陵

左上/多摩陵。上/多摩東陵。左中/武蔵野陵。左下/武蔵野東陵。

武蔵陵墓地

大正天皇の前御により、当時の南多摩郡横山村の御料地が陵所に選定され、昭和2年(1927)に御陵が造営された。現在は大正天皇の「多摩陵」、貞明皇后の「多摩東陵」、昭和天皇の「武蔵野陵」、香淳皇后の「武蔵野東陵」の4つの御陵がある。約400mの参道の両側には京都から移植された北山杉が約150本立ち並び、静寂の中、野鳥や虫の音が響く。

DATA JR中央線高尾駅北口から徒歩約20分。9時～16時(参入は閉門30分前まで)、無休(行事などで参拝休止あり)。無料。八王子市長房町1833。☎042-661-0023



萬盛堂のだんご

昔ながらの手作りの味を楽しんでください。



長く愛される甘すぎない味わい

萬盛堂

明治40年代の創業という老舗和菓子屋。添加物を極力使わず、昔ながらの味を大切にしている。だんごやまんじゅうといった定番商品のほか、春の桜餅、夏の酒まんじゅう、秋の栗蒸しようかん、芋ようかん、冬の豆大福と季節ならではの菓子を楽しんでいる人も多い。後味のよい甘みが特徴で、思わずもうひとつ手が出てしまう。

DATA JR中央線高尾駅北口から徒歩約5分。9時～19時、水曜休(お盆・お彼岸・祝日の場合は変更あり)。八王子市高尾町1618。☎042-661-0114

高尾の空気を味わって、のんびり過ごしてもらいたいですね。



高尾駒木野庭園園長 中川敏昭さん



人気の秘密は水とこだわりの素材

峰尾豆腐店

昭和33年創業の豆腐店で、神奈川や埼玉からこの店を目指してやって来る人も人気ぶり。高尾山系の良質な地下水を使って作る豆腐は寄せ豆腐と木綿豆腐の2種類。寄せ豆腐の原料は100%秋田産の大豆を使用し濃厚な味わいが特徴。木綿豆腐は独自に大豆をブレンドし、あっさりとした飽きのこない味に仕上げている。もうひとつの人気商品がおからドーナツ。おからと豆乳を使ったヘルシーな一品だ。

DATA JR中央線高尾駅北口からバス約8分「指差」下車すぐ。8時～18時、水曜休。八王子市裏高尾町1083。☎042-666-0440



おやつに「おからドーナツ」はいかがですか。

左/3代目店主の峰尾勝さん。ケースの中は自慢の木綿豆腐140円。左上/大人気のおからドーナツ5個入り350円。



高尾名物とろろそばの人気店

屋根から飛び出す、柿の木を見に来てください。

高尾山高橋家

高尾山の名物グルメといえばとろろそば。かつて高尾山薬王院で修行する僧たちに、精がつくようそばにとろろをつけて出したのが始まりといわれる。中でも高尾山高橋家は天保7年(1836)創業の老舗。そばはそば粉約6割にとろろ、上質粉を練り込み機械打ちしている。とろろは大和芋のねばりと長芋のとろろを生かすよう同量使って味付けしている。これを代々受け継いできた伝統のつゆでいただく。

DATA JR中央線高尾駅から京王線に乗り換え、高尾山口駅下車徒歩約3分。10時～17時30分L.O.夏・冬・春期に休あり(要問い合わせ)。八王子市高尾町2209。☎042-661-0010



右/老舗の風格がただよう外観。屋根から飛び出す柿の木は樹齢150年を越す店のシンボル。左/ホール主任の西川ゆかりさん。上/名物のとろろそば。温かいものと冷たいものがある。各900円。

自然と歴史と清涼感と。高尾で“ほっ”の高い水が勢いよく流れる、清涼感あふれる光景だ。そんな自然が豊富だから四季の移ろいもまた、身近に感じられる。駅の南側には商店や住宅街が広がり、北側は自然と歴史の宝庫。都市の便利さを享受しつつ、思い立ったらそのまま自然の中へ。街の機能と自然のバランスの妙こそが高尾の魅力。誰もがほっとできる街、まさに東京の故郷といえるのが高尾なのだ。

自然と歴史と清涼感と。高尾で“ほっ”



高尾駅の天狗の石像

高尾まち歩き

高尾は駅周辺を歩いていると、そこから付近の山から流れ出す川や沢にぶつかると、透明度の高い水が勢いよく流れる、清涼感あふれる光景だ。

思いきり体を動かしたり、いろいろな体験ができます。



森づくりも体験できるプログラム

右/野鳥観察会の参加者全員で。上/森の中で野鳥の羽を見つけた。下/鳥の痕跡を探す参加者たち。

高尾の森自然学校

東京都が所有する26.5haという広大な森を活用した環境体験学習の場で、今年4月にオープン。週末にはさまざまな体験プログラムを実施しており、森林整備事業を通じて森づくりを学んだり、野鳥や草木の観察、木の実や落ち葉、枝などを使ったクラフトワークショップなどにも参加できる。

DATA JR中央線高尾駅北口からバス約14分「高尾の森わくわくビレッジ」下車徒歩約12分。9時30分～17時、水曜休(祝日の場合は営業)。無料。プログラムの詳細は要問い合わせ。八王子市川町705-1。☎042-673-3844

高尾の森わくわくビレッジ

高校の校舎だった建物をリノベーションし、「野外アクティビティ」や「アート&クラフト」など、屋内と野外で合わせて100以上のプログラムが楽しめる体験型学習施設に生まれ変わった。子どもも大人も、個人も団体もさまざまな利用ができるのが特徴だ。体育館やカフェテリア、宿泊施設、大浴場などあり、野外には原っぱ、ツリーハウス、テントサイトなどが設けられている。



DATA JR中央線高尾駅北口からバス約14分「高尾の森わくわくビレッジ」下車すぐ。9時～22時(活動施設)、点検時休(要問い合わせ)。入館無料(プログラムは別途)。八王子市川町55。☎042-652-0911



親子でいっしょに楽しめる

左/最初にスタッフに作り方を教えてもらい、その後は自分で続けて作るセルフプログラム。上/館長の佐藤信也さん。

高尾599ミュージアム

この8月、高尾山の麓に新たなミュージアムがオープンした。高尾山の標高にちなんで「高尾599ミュージアム」と命名された2階建ての施設で、1階には展示室と映像コーナー、カフェ、2階はギャラリースペースになっている。展示室では高尾山に生息する昆虫や植物の標本、近辺のジオラマが展示され、キッズスペースには高尾山の起伏が再現されている。映像スペースでは高尾山の四季がユニークなアニメーションで映写される。

DATA JR中央線高尾駅から京王線に乗り換え、高尾山口駅下車徒歩約4分。8時～17時(4～11月)・8時～16時(12～3月)(入館は閉館30分前まで)、無休。無料。八王子市高尾町2435-3。☎042-665-6688



キアゲハの標本



高尾山の動植物を紹介

上/約200種の昆虫と130種の植物を展示している。左/広々とした敷地にはじゃぶじゃぶ池などもある。

高尾駒木野庭園

大正時代に建てられた母屋と、昭和初期に増築した2階層からなる和風家屋。かつて住居兼病院として使われていたが、3年前に住居を整備、家屋内を一部バリアフリー化して一般公開した。池泉回遊式庭園、枯山水、盆栽、家屋内に設けられた茶室と、日本情緒たっぷり。家屋内で提供しているコーヒー、お茶などの飲み物と茶菓を味わいながら、のんびりと庭園を眺めたい。

DATA JR中央線高尾駅北口から徒歩約15分、またはバス約3分「病院前」下車徒歩約1分。9時～18時(4～8月)・9時～17時(9～10月)・9時～16時(11～3月)(旧民家への入館は閉館30分前まで)、年末年始休。無料。八王子市裏高尾町268-1。☎042-663-3611



左/風情のある純和風の家屋。左の廊下は枯山水の庭に面している。下/家の前には盆栽棚が並び、屋内からも楽しめる。

情緒あふれる日本家屋と庭園



高尾の魅力

この人に聞く

「私がここに通うようになって、まず感じたのが空気の清涼感です。とくに盛夏の夕方。どんなに暑い日でも、午後5時ごろになるとひんやりとした空気が流れてきます」と話すのは祖父の代から八王子駅近くに住み、昨年からは高尾駒木野庭園の園長として一日を高尾市内ながら、その空気の違いは歴然としているという。「実はこの近くでホテルを見ることのできるんですよ」南浅川の上流の小仏川には、環境のパロメーターといわれるホテルが生息しているのだ。一時は消えたかと思われたホテルが、近年再びその姿を見せるようになった。「もうひとつは交通の便がよいことですね。都心へ行くにも電車ですぐ、始発駅なので座っていただけるのも大きなポイントでしょう」交通の便の良さは多くの人が魅力のひとつに挙げた点だ。こうした魅力に惹かれ、最近高尾で暮らし始める人たちがいるという。「アート関係の人たちにもこの環境は魅力のようですよ」また、自然の中で子育てをしたいと考える若い世代からも注目を集めているようだ。その受け皿として、高尾駅周辺では大規模な住宅と商業施設の建設が行われている。

高尾に惹かれ新たに居を構える人たちが、そして彼らを通じ高尾の良さを再認識する人たちが、両者の交流がこれからの高尾を作っていく。

昭和20年代半ばの高尾駅近くの甲州街道の街並み。
高橋一朗氏所蔵



街

History in this town の生い立ち

御陵の存在、高尾山の参拝や観光とともに発展してきた高尾の街。その成り立ちと歴史をたどってみよう。

明治21年(1888)には、街道が現在の大垂水峠を越えるルートに変更される。今では関所跡の碑と、通行人が手形を置いたという2つの石が残された、小さな公園になっている。

明治以降の高尾の街の発展は、高尾山と武蔵陵墓地、そして中央線の整備と切り離すことができない。

明治34年(1901)に浅川駅(現・高尾駅)が開業すると、高尾山への最寄り駅として参拝者や観光客が降り立つようになる。それに合わせ駅近くの甲州街道沿いに次第に店舗が増え、昭和初期までにはにぎやかな商店街が形作られた。

そして昭和2年(1927)2月7日と8日、大正天皇の大喪の礼が執り行われる。2月13日からは多摩陵の一般参拝が許され、多くの人々が浅川駅から御陵へと向かった。この人の動きに合わせるように昭和4年(1929)には、武蔵中央電気鉄道が甲州街道を走る路面電車を敷設(昭和14年休止)、2年後には京王電気軌道が御陵線を開通させた(昭和20年休止)。バスも運行されており、アクセスが便利になった高尾二帯はいっそうのぎわいを見せるようになる。

そんな歴史を歩んだ高尾が今、変わり始めている。周辺の豊かな自然を生かした体験型施設が増え、自然を求めるファミリーの絶好のプレイスポットとなりつつある。また、新たな街づくりも同時に行っている。豊かな自然を持つ街がこれからのように変わっていくのか、見守っていきたい。

高尾

高尾は江戸時代から交通の要衝だった。高尾駅から1kmほど西に、裏高尾町と呼ばれる地区がある。ここにはかつて、甲斐国と江戸を結ぶ甲州街道が東西に走っており、小仏関所と呼ばれる甲州街道でもっとも堅固だったという関所が設けられていた。しかし明治2年(1869)に関所は取り壊され、

明治21年(1888)には、街道が現在の大垂水峠を越えるルートに変更される。今では関所跡の碑と、通行人が手形を置いたという2つの石が残された、小さな公園になっている。

明治以降の高尾の街の発展は、高尾山と武蔵陵墓地、そして中央線の整備と切り離すことができない。

明治34年(1901)に浅川駅(現・高尾駅)が開業すると、高尾山への最寄り駅として参拝者や観光客が降り立つようになる。それに合わせ駅近くの甲州街道沿いに次第に店舗が増え、昭和初期までにはにぎやかな商店街が形作られた。

そして昭和2年(1927)2月7日と8日、大正天皇の大喪の礼が執り行われる。2月13日からは多摩陵の一般参拝が許され、多くの人々が浅川駅から御陵へと向かった。この人の動きに合わせるように昭和4年(1929)には、武蔵中央電気鉄道が甲州街道を走る路面電車を敷設(昭和14年休止)、2年後には京王電気軌道が御陵線を開通させた(昭和20年休止)。バスも運行されており、アクセスが便利になった高尾二帯はいっそうのぎわいを見せるようになる。

そんな歴史を歩んだ高尾が今、変わり始めている。周辺の豊かな自然を生かした体験型施設が増え、自然を求めるファミリーの絶好のプレイスポットとなりつつある。また、新たな街づくりも同時に行っている。豊かな自然を持つ街がこれからのように変わっていくのか、見守っていきたい。

最新号『散歩の達人』10月号 発売中 (9月19日発売)

巻頭特集
大人の趣味の街・大解剖
神田・神保町
生粋の下町・神田と、巨大な古書店街・神保町。新たな商業施設もオープンし、近年注目を集める大人の趣味の街を大解剖！
ブックカフェと純喫茶／個性派古書店／神田明神さんぽ／カレー女子部／普通の中／とっておきの大人酒場
第2特集 奥多摩・御岳〜秋の山さんぽ
11月号(10月21日発売予定)は「町田」を特集予定。



※本冊子の情報は2015年9月現在のものです。※料金・営業時間・休園(館)日、イベント内容・期間などに変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。※営業時間・休園(館)日はゴールデンウィーク、お盆、秋の連休、年末年始などは変更になる場合があります。※掲載の写真・地図などは全てイメージです。

中央線が好きだ。マガジン 2015 vol.2
2015年9月発行
発行|東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社
制作|株式会社ジェイアール東日本企画
編集|株式会社交通新聞社
表紙写真|小嶋裕



高尾駅の天狗に
会いに来てください。

高尾駅駅長
本多友光さん

見どころ いっぱい 高尾駅

◆天狗の石像

数々の天狗伝説が伝わる高尾山。その玄関口の駅だけあり、高尾駅にも天狗がいる。3、4番線ホーム東京寄りにある石像は昭和53年に設置された。高さ約2.4m、鼻の長さ1.2m、重量は約18tにもなる。夜にはライトアップされ、終電までにらみをきかせている。



◆北口駅舎

現在の駅舎は2代目で、昭和2年(1927)、大正天皇の大喪列車の始発駅として、新宿御苑に設置された仮設駅舎を移築したもの。今後計画されている高尾駅周辺整備のため再び移築が予定されている。現在の駅舎は関東の駅百選のひとつとして認定されている。



人気商品。右から高尾天狗パン150円、そば「高尾の里」1束453円、高尾ラスク92円、高尾ポテト皮付き250円、プレーン・ごま230円。

◆Ichigendo

北口改札外のベーカリー&カフェ。農家の直産野菜や豆腐などを販売しているほか、八王子周縁の特産物とオリジナルの調味料、さらに島根県を中心とした全国からセレクトした「いいもの」が置かれ、高尾みやげも手に入る。ベーカリーのおすすめは高尾天狗パン。ふわり米粉のパンには天狗の焼印が押され、中にはきな粉クリームがたっぷり。カフェのカレーも人気の一品。

【DATA】JR中央線高尾駅北口構内。7時30分～20時30分、無休。八王子市高尾町1201-2。☎042-669-4701

◆国産最古級の レールを使った柱

ホームの屋根を支える柱の一部は、なんと使用済みのレール。柱上部をよく見ると「1902」という数字があるが、これはレールの製造年。製造した官営八幡製鉄所は1901年に製鉄を開始したが、これまでのところ1901年製のレールは見つかっていないという。つまり現存最古ともいえるレールなのだ。場所は3、4番線ホーム24番柱。



◆レンガ造りのホーム跡

跨線橋から4番線ホームの下部部分を見るとレンガが積み重ねられているのが見える。これは中央線の前身、甲武鉄道時代のレンガ造りのプラットホーム跡。のちに電車ドアの高さに合わせコンクリートブロックが積み増された。



駅に詰まった歴史の痕跡探しがおもしろい
中央線に乗っていると、東京駅から続いてきた街の風景が、一転して山景色に変わる場所がある。そこにあるのが高尾駅だ。ここを境に、線路は一気に山の中に吸い込まれていく。まさに東京の西の玄関口が高尾駅なのだ。
開業は明治34年(1901)8月。当初は所在地が浅川村だったこともあり、「浅川駅」と命名された、のちに高尾駅と改称された。堂々たる和風建築の北口駅舎をはじめ、駅構内には長い歴史を物語るモノが各所にある。行楽の行き帰りに、通勤通学の電車待ちの時間に、ちょっとだけ駅を眺めてみては。

ののわ

地域で出会った人

地域の「お宝」と人々の連携から生まれた「天狗の鼻 棒かりんとう」



第1号商品の「天狗の鼻 棒かりんとう」(左から2番目)と地域コラボ商品。すべて330円。

高尾山薬王院の売店で、もっとも人気のあるお土産は「天狗の鼻 棒かりんとう」だという。薬王院では黒糖、塩と甘蜜、唐辛子、生姜はちみつの4種を販売している。実は「天狗の鼻」は、多摩地域各所でさまざまなバージョンがある。たとえば小金井市では栗味、武蔵野市ではとうがらし、青梅市では澤乃井の酒粕味など、それ



小澤尚弘さん
(株)MNH 取締役社長

ぞれの特産品を生かした地域コラボバージョンだ。

これらの商品を手掛けたのは地域の企業と団体や人をつなげ、商品を開発し、販売する調布市に本社のあるMNHという企業。「天狗の鼻 棒かりんとう」は、同社の記念すべき商品化第1号だ。

はじめは「かりんとうを天狗の鼻に見立て多摩名物にしたら」というアイデアが社

内で生まれた。それを具体化するためNPOの事務局長の経験がある小澤尚弘さんが社長として招かれた。小澤さんは自らのネットワークとアイデアで金融機関、農家や酒造、福祉作業所やNPOなどを巻き込み、つなぎながら商品を開発し、その後さらに地域ごとの商品として展開していったのだ。

Information

小澤さんは山形と多摩地域の名産品の販売にも取り組んでいる。7月にはコミュニティステーション東小金井広場で「たまがた祭り」が開催された。11月にも関連イベント開催の予定がある。



製品の流通に関しても以前、培ったネットワークを活用。かりんとうの包装作業は福祉作業所に、配送はNPOにそれぞれ依頼した。また販売店には、この商品を扱うことが障がい者の支援や地域貢献につながることを説明し、目立つ売り場を確保。地域限定販売も功を奏し、固定ファンがいるほどに。

「地域の資源を活用し、お金と雇用に変えるのがわが社の役割」と語るとおり、見事なビジネスモデルを確立した。

今回のプロジェクトは、商品のヒット以外にも「うれしい驚きがあった」と、小澤さん。福祉作業所の作業員とNPOの高齢のメンバーが気軽に声を掛け合っているのを見かけたのだという。おそらく今回の仕事があれば出会うことも、まして話をすることもなかったであろう人たちがつながった。社名のMNHとは、「みんな日本でハッピーに」の略。地域に根ざした商品の開発でさらにハッピーになる人が増えるよう期待したい。

TOPICS

「ののみちガーデニングDAY」を開催！

6月20日、21日、武蔵境駅と東小金井駅間の高架下で、ガーデニングイベント「ののみちガーデニングDAY」を開催。初日は昨年、地域の方々と作った「コミュニティガーデン」にて、植物の植え替えやハーブを使った香り袋づくり、植物観察イベントなどを実施。2日目は高架下の広場で、武蔵野エリアに住む著名なガーデナーによるトークセッションが行われた。両日とも多数の参加があり、地域の人たちが交流する良いきっかけに繋がった。



詳細情報は下記URLで

<http://www.nonowa.co.jp/areamagazine/blog/201507/01.html>

ののわプロジェクトとは

「ののわ」は、「緑×人×街 つながる」を合言葉に、中央線の立体交差化で北と南がつながった三鷹から立川間の魅力を引き出すプロジェクト。「nonowa(ののわ)」*は、豊かな自然や、個性ある文化と駅と街をつなぐ、「武蔵野の『輪・和』になりたい」という願いを込めて名付けられたプロジェクトの名称です。東京のまん中にあるこのエリアで、地域の魅力を共有し、暮らし方や働き方を見つめ直すことで、この地域ならではのライフスタイルを探っていきます。



武蔵野3原色の「土・水・緑」の「わ」が重なる「nonowa」のハート。中央線の自然と文化が融合し、新しいライフスタイルがはじまります。

ののわウェブサイト

<http://www.nonowa.co.jp/areamagazine/>

*株式会社JR中央ラインモールが運営する商業施設の名称としては、英文字で「nonowa」と表記しています。